

「手花部小学校ので～ぶエイサー・八月踊り伝承活動の取組」

1 学校名

奄美市立手花部小学校

2 学年・人数

全校児童8人（1年1人，2年1人，3年2人，4年2人，6年3人）

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

総合的な学習の時間・体育館及び音楽室

(2) 発表の日時・場所

校区敬老会，校区合同運動会，市小中合同音楽発表会，学習発表会

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能，伝統行事について

(1) 名称 「て～ぶエイサー・八月踊り」（てーぶえいさー，はちがつおどり）

(2) 由来

「八月踊り」は，1月7日の十五夜の会と合わせ，笠利町の三大踊りと言われている。旧八月中の新節，柴挿嫩等の踊りがある。主として豊年感謝と祈願のための踊りである（笠利町教育委員会「笠利町誌」昭和48年7月より抜粋）。発祥年代は不明である。

本校では，約10年以上前に「総合的な学習の時間」の中で「八月踊り」「島唄」「三線」の奄美伝統芸能を，さらに沖縄の民俗芸能の「エイサー」を学んでいる。

(3) 構成等

極少数学校であるため，全校児童で実施している。地域指導者は現在不在で，児童同士の教え合う活動で伝承している。10年程前までは，地域の方に指導者として指導を仰いでいたが，現在は教職員が指導を行っている。今後，地域の方への協力要請を行い，快諾を得ているので，日程調整を行っている段階である。

5 保存会や地域との連携の具体

地域の保存会はない。次年度（平成28年度）は，地域の高齢者の方に「三線」と「島唄」「チジン」を指導していただくように快諾いただいております。今後，日程調整等を行う予定である。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

演舞や楽器演奏等を，高学年が中学年及び低学年の下級生に教え伝えている。三線は，楽譜を中心に，高学年が下級生を教えている。

7 取組の様子（練習状況，発表の場等）



児童同士の練習風景



運動会での演舞披露



敬老会での演舞披露

市小中合同音楽発表会での演舞披露

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教職員等の感想・意見

【地域の方々から】

- いつも元気をもらっている。
- 少ない人数だが，大きな声で堂々と発表してくれている。
- 毎年，子どもたちの演技を見るのが楽しみである。
- 手花部小の子たちの様子がよく分かり，地域の誇りである。

【保護者から】

- いつも「すごいな。」と思いながら見ている。少ない人数ですが，迫力があってとてもよいと思う。この伝統をこれからも続けて欲しい。

【児童】

- 覚えるのは大変だが，地域の方々がおほめてくれるので，もっと上手になれるよう頑張りたい。